

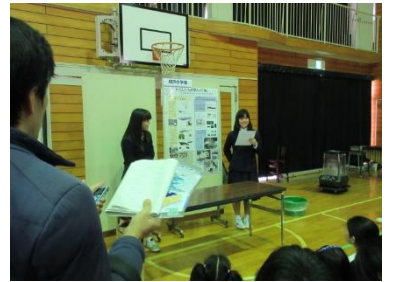
第1回海洋教育の集いの報告その3



剣崎小学校の発表です。目の前に広がる江奈湾は、イソガニ、ガザミ、アカテガニ、カモヤサギ、アマモなど、生き物の宝庫です。どうして、これほど多くの生き物が生息しているのか、江奈湾に流れ込む一つの川の流れをたどってみて、見つけたこと、気づいたことを発表しました。この環境を守るために、「ごみを捨てない」ことなどを他の人にも呼び掛けていこうと考えた

そうです。

初声中学校の発表です。1つ目は、自分たちが、県立海洋科学高校の出前授業で学んだ「煮干の解剖」についてや、職場体験で、東京大学三崎臨海実験所に行き体験した、生物標本の整理、電子顕微鏡撮影等について発表しました。



煮干しの実物をもらった小学生は、大喜びでした。

もう1つは、東京で行われたサイエンスキャスルで発表してきた「三浦の海の生物種の変化」でした。海水温の上昇とともに減少しているショウジンガニにスポットを当て、生態の変化によって、捕食者（三浦では、イセエビ）の生態が変わってしまうのではないかと考えたそうです。参加者からの質問にも、きちんと答えることができていました。



発表終了後、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターの日置特任教授が講評し、「みんなの発表を見て、(気温が低いので)体は冷えたが、心は温かくなった」「観察をすると、心が動く。その動きや驚きを言葉に出すと、もっと良くなる。調べてわかったことと、自分の気持ちの両方を結びつけることが大切。直接さわった体感、実感をよく考えて言葉にしていけることが思考力の向上につながる」というまとめがありました。



こうして、児童・生徒の活躍と先生方のご協力のおかげで、第1回海洋教育の集いは、盛会のうちに幕を閉じました。この取り組みは、次年度以降も継続、発展させていきたいと思っています。本研究所は、次年度以降も、海洋教育の発展・定着を目指して努力していく所存です。今後とも、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



3月1日より先生方のPC上に、「海洋教育カリキュラム一覧」というリンクアイコンが存在しています。海洋教育カリキュラムを投稿、閲覧可能なイントラネットサイトです。ぜひご活用ください。

(文責 事務局長 渋谷)